



對比宣傳情報目次

第一、東インドに對する將來獨立許與の言明

(一) ラウレル大統領の談話

(二) ジャワ中央參議員長スカルノ氏感謝の辭

第二、敵側對比宣傳動向

(一) 日獨敗戰必至の強調

(二) 遊撃隊の活躍に就て

第三、一般參考情報

意注

尙 傍 線 ハ 極 秘 扱 ト ス	ト ヲ 避 ク ル モ ト ス	ニ 於 テ ハ 生 文 ノ 儘 利 用 ス ル コ	本 情 報 ヲ 宣 傳 上 利 用 ス ル 場 合
---	--------------------------------------	---	---

第一、東インドに對する將來獨立許與の言明

小磯首相が第八十五臨時議會に於て東インドに對し將來獨立を許與する旨言明したことは道義日本の誠實を眞意を明確化したものとして比島民間に大きな感銘を與へたが、ラウレル大統領は八日談話を發表、是こそ大東亞宣言の具體的顯現であり道義日本にして始めて爲し得るところであると絶賛し、東亞十億民族が眞に解放せらるる爲には日本の戦争完遂に全力を擧げて積極的協力を行ふべきであると一般に要望するところがあつた。

(一)ラウレル大統領談

第八十五臨時議會で小磯首相が東インドに對する獨立許與の確約を與へたことは大東亞宣言の誠實なる具體化であり、全亞細亞民族の解放を念願とする指導國家日本の眞摯な決意の顯現である、

此の歴史的な言明の裡に米國の桎梏から解放され今や自由を享受しつゝある比島民族は自己の獨立に對するいま一つの保障を讀み取ることが出来る。我々比島人は此の嚴然たる事實を通じ、大東亞戰爭完遂の爲總力を擧げて戰爭協力に邁進すべく新たな覺悟を持たねばならぬ。

(二) ジャワ中央參議員長スカルノ氏感謝の辭

(ジャカルタ八日發同盟)

輝く獨立認容の朗報に接した中央參議員長スカルノ氏は七日午前ジャカルタ放送局のマイクを通じて左の如き感謝の辭を行つた。  
「本日私達四千万インドネシヤ民族は大日本帝國が東インド民族永遠の福祉を確保する爲に將來獨立することを認容すると云ふ小機首相の議會演説を得た。此の報を得て先づ第一に感じたことは

畏くも 天皇陛下の宏大無邊の大御心に對し奉り恐懼おくとこ  
ろを知らざる感激であつて、聖慮に依つて私達は益々大東亞の家  
族の一員であるとの認識を深めた次第である。

數日前私はインドネシヤ民族としての挨拶を日本に送つたのであ  
るが、その時私は「私達は今次戦争に於て日本に協力する所以の  
ものは日本が道義に基いてゐるからである」と云つた、私達は數  
世紀に亘り民族としての獨立を念願して來たこの理想こそ私達が  
久しきに亘つて背後に米英の後援を恃んだオランダ帝國主義に抗  
して闘ひ來つた根本理念である。

されば大日本帝國が東インドに對する將來の獨立を認容されたこの  
時に當つて私達は愈々大日本と飽くまで同生共死、最後の勝利獲  
得に邁進する覺悟を固めたのである、インドネシヤは飽くまで戰  
ひ抜かうとする用意を持つて居り、最後の決戰の爲犠牲を擧げん  
とする用意を持つてゐる。

## 第二、敵側對比宣傳動向

敵側の對比宣傳動向は前句と大差なきも歐洲戦線の微妙なる推移と太平洋戦線に於ける敵の驕勢に乗ずる宣傳は益々募り、比島解放の機目眩に至れりと爲す宣傳戦に執拗にして戦局已に彼に決定的勝利を獲得せるが如き印象を與へしむるに努めあり。

今期にありては

- (一) 日本に於ける船舶、軍需物資の窮乏を謳ひ、又現内閣の失敗を捏造して日本の敗北、比島解放の日遠からざるを強調す。
- (二) 作戦的解説に依り比島解放の愈々真近きを強調す。
- (三) 米海軍首腦者の言動を藉り太平洋航空作戦の優位を強調す。
- (四) 小磯内閣に對する批判、日本政治方の弱体化、漏洩化を強調す。
- (五) 諸國に於ける遊撃隊の活動盛りを解説し比島人の蹶起を促す。
- (六) 聯合軍諸將領の言動を引用して、彼が勝利の裡に戦争早期終結を豫言し、比島人の志氣を鼓舞す。

(七) 帝國の臨時議會に對する揶揄的批判等其の主なる動向である。

一、三の例

(一) 日獨敗戰必至の強調

(桑港五日對比放送)

著名なる米軍事評論家C. P. コリオット少佐は今次歐州大戰五周年記念日に際し次の如く語つた。

「今や獨乙は滅亡に瀕し日本の敗北も又近きにあり、過去五ヶ年に亘り人類史上最も怖るべき戦争が行はれたるも米國及其の聯合國は今日各戰線に於て勝利に向ひ邁進中なり、獨乙の勝利に對する自負は失はれ其の船舶は撃沈され軍隊は破滅に瀕せり、他方日本は益々増大する米軍勢力の爲大打撃を受け其の敗亡の日は近し日本の内廓防禦線は東京を距る一、五〇〇哩の地域に縮少され日本國民は今や米空軍の爆弾の雨を覺悟するに至れり」と、東京よりの報道は

「米軍は既にサイパン島に航空基地の設定を完了せり、今や米軍はマリアナ諸島及サイパン島の強方なる航空基地に依り日本に對し最後の決戦を挑みあり、米航空作戦の第一目標は日本々土に對し大爆撃を敢行し之を破壊せしむるに在り、同時に中部太平洋作戦に依り比島の占領更に南支那に主力を上陸せしめ、斯くして日本々土と南方諸地域との交通線の遮斷を企圖しあり、之は日本の軍需生産に對し大打撃を與へるものなり」と

去る八月十五日在華府比島政府大統領オスマニア氏に依り比島解放委員會の唯一の女性として委員に選出せられたる日まりト夫人は新聞記者團との會見に於て次の如く語れり。

「戦争が聯合軍に有利に進展したので私達は比島に歸還準備をしてゐる、比島の現状に就ては正確なことは知らないが私達の故國が日本に占領されたゆゑ荒廢してゐることはよく承知してゐる、比島の生産物が悉く日本に送られるため母國の商業、貿易、工業等



はその販路を失ひ停止されてゐる」と

(二)遊撃隊の活躍に就て

(桑港二日放送時局解説)

加奈陀紙は最近次の如く指摘した。

日獨兩國は今回の戦争で遊撃隊の如何に恐るべきかを充分に認識したことを思ふ。例へば聯合軍の北佛作戦の順調に進捗されてゐるのは佛蘭西の反獨遊撃隊の活躍に負ふところ頗る大であつて、佛蘭西の廣範な地域は彼等に依つて獨軍から解放され今や彼等の協力は聯合軍にとつて缺くべからざるものとなつた。

蘇聯に於ては遊撃隊の活躍は特に目覺しく赤軍に協力して偉大な役割を演じてゐる。

即ち戦線背後に於て莫大な獨軍の武器彈藥を鹵獲したり、無数の橋梁、車輛及び戦車等を爆破して獨軍の使用を妨害して勳功を擧げたものが多い。

支那にあつても亦遊撃隊は屢々日本軍の作戦を妨害し又各地に於て自國軍に協力して日本軍占領地を奪回した。

「チエコスロバキア」政府の聲明に依れば反獨愛國者は既に殆んどスロバキアの全土を奪回するに至つたため獨軍は戰軍を出動せしめて目下遊撃隊の鎮壓に大奮である。

彼等は全世界の反日、反獨の愛國者の賞賛に値する斷乎たる決意を以て闘争を繼續するであらう。

樞軸國に脅威を與へる斯の様な祖國の防護者を以て任ずる遊撃隊は職工、學生、教師、醫師、法律家、技師、家庭婦人等の一般人から編成されるものであつて彼等の都市を彼等の自身の力で侵略者の破壊から救ふことが出来る場合は何時でも曝起するものである。云々

第三、一般参考情報

(一) 開戦以來英國領土内に於ける損害

(倫敦三日發英國公報)

今次歐洲大戦開始以來五ヶ年間に於ける英國側死傷者數左の如し

(イ) 戦死者數 二四二、九九五名

行方不明者數 八〇、六〇三名

負傷者數 三一、五〇〇名

捕虜 二九〇、八六三名

小計 九二五、九六〇名

(但し英國全領土内に於ける損害數)

(ロ) 空襲に依る市民死傷者數 五六、一九五名

負傷者及入院者數 七五、八九七名

(但し英本土のみの損害數)

(ハ) 英國商船乗組員死傷者數 二九、三八一名

(二) 敵國抑留者數

小計

四、一九二名

三三、五七三名

總計

一〇九一、六二八名

(一) 米海兵隊及沿岸防備隊の損害

(桑港三日發 A O P 電)

米海軍省の發表に依れば三日迄の米海兵隊及沿岸防備隊の受けし損害は五九、〇二七名にして内譯は死者二三、六七六名、負傷者二一、二四二名、行方不明九、六四三名、捕虜四、四六六名なり

(三) 獨乙、最後の勝利を確信

(伯林三十日發 D N B)

戦争第六年目に入りたる今日聯合軍の攻勢が効を奏するか獨軍よく之を制して勝利を占むるかと謂ふ重大なる岐路にある、然し獨乙の空軍部隊及新秘密兵器の攻撃は聯合軍に大損害を與へ一九四四年の九月若くは十月中に獨軍が敗退すると云ふ予言の裏りなる

ことが判明する時が来るであらう。  
獨の軍部及び政界筋は戦局が獨乙に有利になることを強調してゐる、  
即ち聯合軍の敗戦は確實である、之に關し最も重要なことは對  
日戦は未だ開始されてゐないと云ふことである。  
歐洲に於ける長期戦で疲弊した聯合軍が引續き長期の對日戦を行  
ふなら聯合國の政治家連中はその作戦に對し不信任を突きつける  
であらう。  
日獨は開戦以來本大戦が生死を賭したる鬭争である事實を充分認  
識してゐる、國民の生命を保持しようとするには勝たねばならぬ  
ことを知つてゐる、此の兩國國民の士氣を昂揚せしめてゐるのであ  
る。

(四) 對日攻勢の困難性を米國民に警告

(桑港卅一日發 A O P 電)

米海軍長官フォレストルの記者團會見に出席したるフォレストル。

P. シヤーマン少將（註ニミッツ大將附參謀長代理）は對日攻勢に關し次の如く語れり  
「獨乙の崩壞は太平洋方面聯合軍の兵力増加を可能ならしめ、對日攻撃作戰を尙一層進捗せしむるであらう、然し米國民は此の兵方移動が一夜潰で行はれると考へてはならない、太平洋作戰に於ては大規模作戰を支持する良港が多くないことを想起しなければならぬ。」

〔米國ゴム不足愈々深刻〕

（伯林一日發D N B電）

マドリッド紐育バス會社はゴム不足のため九月中別命あるまでマ  
ンハツタン—ブロンズ間のバス運轉を中止するの余儀なきに至  
つた。主務官廳の言明に依れば米國は今やバス及び貨物自動車用  
タイヤの不足のため深刻なる危機に直面してゐる」と。

〔支那大陸B 29基地の補給困難に悲鳴〕

(リスボン五日發同盟)

ワシントン來電 I 米陸軍省は五日 B 29 の作戦を指推してゐた陸軍第廿航空隊參謀長代將ハンセルが海外に於ける新任務に就きその後任にローリス・ノースクツドが任命された旨發表した。ハンセルは辭任に當り第二十航空隊の作戦につき次の通り語つた。

B 29 が現在までの作戦で受けた損害は大きかつたことを認めなければならぬが此の損害も漸次減少しやう、又 B 29 の對日攻撃も頻繁には行はれてゐないが、此の原因は重慶地區の基地に對する補給が充分でないためである、併し此の補給の問題も問もなく部分的乍ら解決することが出来やう、結局此の當分の問題は B 29 を毎日出動させるやうなことは先づ出来ない。

(七) 米英兩國の相剋相次ぐ

(リスボン一日發同盟)

ワシントン來電 II 歐洲侵攻反樞軸軍附米人政治顧問フイリツダス

が英國の印度政策を攻撃した理由で英國政府から排斥を受け、遂に米國に引揚げた事件は米英兩國間の重大政治問題と化するに至つた、共和黨下院議員カルビン・ジョンソンは一日之に對する米國の報復を主張、次の決議案を議會に提出した。

英國政府がフイリツプスを「望ましからざる人物」としてロンドンからの引揚げを要求した以上米國政府としても當然これに對する報復措置に出るべきだ、差し當り政府はワシントン駐劄の英國公使キャンベル及び印度公使シヤンカール・バヤラを「望ましからざる人物」として米國から引揚げることを要求すべきだ、フイリツプスの指摘した如く印度問題紛糾の責任は總べて英國政府にあり、英國が現在の如き印度政策を續くる限り印度方面に於ける反樞軸軍の作戰にも重大な支障を與へよう。

一方ワシントン駐劄英國大使ハリファックスはフイリツプス召還問題が米國政界の重大問題化したのに周章狼狽して一日左の釋明



聲明を發表した

ファイリツプスの米國召還が英國政府の要求によつて行はれたとの印象が米國內で深まつてゐるのは遺憾である、ファイリツプスの場合は勿論、英國政府はいままで一度も英國に派遣された米國使臣に對してその退去を要求したことはない

(八) 米國の炭鑛罷業重大化

(リスボン發同盟)

ニューヨーク來電 II ペンシルヴァニア中部地方の炭鑛に發生した炭鑛夫罷業は忽ちにしてペンシルヴァニア全州は勿論ウエスト・ヴァージニア州にも波及して四日には更に九千六百名の炭鑛夫が新たに罷業に参加した、形勢樂觀を許さず事態が悪化すれば昨年の炭鑛大罷業の再現さへ豫想されてゐるが、ル大統領は既に十炭鑛を政府に接收したのに加へ四日には更に多數の炭鑛を接收した、大統領の炭鑛接收は從來罷業が現實に發生してゐるもののみに限

られたが、四日の接收命令は労働者が不穩の態勢を示してゐる炭  
鑛をも含んでゐる。

軍事極秘

尙武參乙第四二號

部隊長

寫真通信ニ關スル件通牒

昭和十九年九月十二日

尙武集團參謀長

盟突團長殿

首題ノ件別紙寫ノ如ク大本營陸軍參謀部總務課長ヨリ通牒アリタルニ、  
ツキ貴部隊ニ保有セラレアル各種寫真資料ヲ其都度送附セラレ度  
又同一寫真通信ニ關スル意見、反響等報告相成度

通牒先 尙、泉、杉、駿、勤、察、盟、鎧、マ醫司、軍憲兵隊、  
六鐵輪、三飛設、五飛設、防諜班

19.9.19  
受付

松田

1191



大本營  
陸軍部 參密第七號第三二

寫真通信ニ關スル件

昭和十九年九月二日

大本營陸軍參謀部總務課長

首題ノ件ニ關シ今後當部ニテ蒐集セシ各種寫真ヲ複製シ「寫真通信」ナル名稱ノ下ニ對外（敵）宣傳資料ヲ定期的且繼續的ニ送附致スヘキニ付利用相成度

尙貴軍ニ保有セラレアル各種寫真資料ヲ其ノ都度送付セラレ度

又右「寫真通信」ニ關スル意見、反響等通報相煩度

通牒先 支總軍、關東軍、威、岡、富、治、尙武、森、信、義、灘、渡、輝、彙、甲、

戊、呂、波、香港、上海、光復關

軍事極秘

尚武參乙第五〇號

昭和十九年度第二期報道宣傳關係  
主要行事一覽表送附ノ件

昭和十九年九月二十日 尚武集團參謀長

盟笑園長殿

首題ノ件軍内宣傳、戰場宣傳並情報蒐集

上ノ資料トシテ別紙ノ通り送附ス

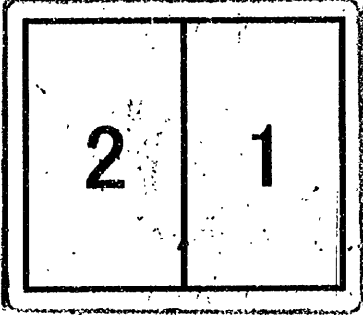
各其ノ地方ノ狀況ニ應シ利用セラレ度

通牒先 隸下各部隊

盟 19.9. 受付

1193

## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	報道宣傳関係主要行事一覧表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	日	13	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	日		
月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	日	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日			
	巴奈馬獨立承認日(一九〇三)	休戰記念日(英米)	國民精神復興詔書下賜(六一二)	大詔奉戴日	米國佛領北阿侵略蘇聯共產革命記念日(昭一七)	米獨伊防共協定締結(昭一五)	大東亞會議開催(昭一八)	明治神宮祭	決戦中央行政機構發足(昭一八)	諸事入省大祝日(カトリック)			十 一 月		滿洲國、中華民國國民政府比島承認	比島軍政撤廢	比島軍政撤廢締結(昭一八)	比島軍政撤廢締結(昭一八)	戊申詔書發給記念日(昭四一)	密陽戰爭勃發(二八九九)	双十節(重慶)	玖瑠「ヤラ」革命記念日	「エクタ」ドルガヤキル」獨立記念日	秘魯海軍記念日	大詔奉戴日	米英協約日石湖全面的禁輸協定成立	米獨伊防共協定締結(昭一五)	米獨伊防共協定締結(昭一五)	米獨伊防共協定締結(昭一五)	米獨伊防共協定締結(昭一五)	米獨伊防共協定締結(昭一五)
28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	日	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	日	
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	日	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	
徴兵ノ詔書發給記念日(昭五)	パナマ獨立記念日	ベルギー獨立記念日	日本ノ最後案ニ對スル米國ノ提案到來(昭一六)	ハラグアイ憲法宣言記念日	新嘗祭	青年記念日	日米交渉ニ於ケル日本ノ對米最後案發表(昭一六)	大本營設置(昭一一)	ルーズベルト米蘇ノ國交ヲ回復ス(昭一三)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	印度國民會議派反英決議案採擇(昭一四)	

昭和十九年度自十月 報道宣傳關係主要行事一覽表  
 第三 期至十二月



昭和十九年十月一日  
 南方軍報道部



15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	日	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6
金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	日	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月
	木 義士祭		印度ニ反英運動勃發(一九三九)	伊國聯盟脫退(一九三七) 米河モノロ主義宣言(一九三三)	獨伊對米宣戰布告(昭一六) 日獨伊單獨不講和協定調印(昭一六)	米西講和(一九三八)	大東亞戦争勃發(昭一六)大詔奉戴日 聖母懷妊ノ日(比島デハ最大祝日ノ一ツナリ)	ロンドン軍縮會議開會(一九三五) 汪兆銘重慶ニ於テ第一次和平聲明			ルーマニア政府南洲承認(昭一五) 母ノ日(長生祝ノ日)				ムツリニ首相東亞新秩序建設支持言 明(昭二三)	比島聯邦記念日(米比兩國旗ガ掲ゲラレタ)			休戦記念日(英米)	國民精神作興詔書下賜(大二三)	母ノ日	大詔奉戴日	米國佛領北阿侵略 蘇聯共產革命記念日(昭一七)	米國佛領北阿侵略 蘇聯共產革命記念日(昭一七)	ルイブベルト三選(昭一五)
31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6
日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	日	水	火	月	日	土	金	木	水	火
大城 印度ラホール大會獨立旗ヲ掲グ (一九三一) 英皇太子印度訪問ボツコイト運動起ル 除夜ノ祈禱(基督敎)	リザールデー	憲府條約破棄通告(一九二四) ルイブベルト三選(昭一五) 不神聖同盟ト諍訟(一九四〇) 同盟條約ヲ	ウイルソン誕生日		米英海軍同盟締結(昭一六)	香港攻略(昭一六) 基督降臨祭	大正天皇祭	皇太子殿下御慶辰 日泰同盟條約調印(昭一六)	米國祖先ノ日			米獨立戦争開始(一七七五)	米獨立戦争開始(一七七五)	汪精衛重慶脱出(昭二三) 南京入城式(昭一二) 米ハワイ敗戦空軍委員會設置(一九四二)	早朝ノ彌撒(十六日ヨリ九日間)	米英重「カイロ」會議 英雄日(ボニアツシヨデー) 感謝祭(米國ニ於ケル初祭日)	日華基本條約締結 日滿華三國共同宣言(昭一五)	徵兵ノ詔書(昭一五) バナム獨立記念日	日本ノ最後英ニ對スル米國ノ提案到來(昭一六) ペルイ陸軍記念日	バラグナイ憲法宣言記念日		新嘗祭	青年記念日	青年記念日	

昭和  
高田  
昭和  
昭和



部	職	記	符	任	部	長	部

軍事極秘

尚武作命乙第六號

第十四方面軍命令 櫻月十日 第一二營

一 戰場宣傳計畫「ヲ別表」通り定ム

二 方面軍宣傳班長、南方軍報道部長、第

三十五軍司令官及直轄各兵團長ハ別冊

「戰場宣傳計畫」ニ基キ之カ實施ニ任

スヘシ

三 方面軍憲兵隊司令官及防謀班長ハ前項

宣傳實施ニ関シ關係各兵團及機關ニ密

ニ協カスヘシ

四、細部ニ関シテハ參謀長ヲシテ指示セシム

第十四方面軍司令官 黒田中將

下達法 印刷交付

配布先 尚、直轄各兵團、報道部、憲司

別班

報告先 威

尚武作命乙第六號一基ヲ參謀長指示

一對比宣傳ニ就テ

比島政府ノ政治力滲透セス州知事以下民心  
一般ニ身邊保安ノ爲對日協力不良ナル反面  
我カ戰備強化、作戰遂行ノ爲ニ對日協力ヲ頓  
ニ強化スルノ要切ナルモノアリテ此ノ間ニ處ニ對  
比宣傳ノ要度極メテ大トナル

民心一般ノ動向ハ前述ノ如ク保身ヲ第一ノ義トシ  
去就ヲ不明ナラシメタル現況ニ鑑ミ明確ナル敵性

分子ヲ徹底的ニ剔抉掃蕩スルト共ニ協力態度  
良好ナルモノハ飽ク迄之ヲ保護シ又一般ニ協力  
ノ具体的方途ヲ明示シテ強力ニ之ヲ誘導スル  
コト特ニ肝要ナリ

参考

行政力強化ニ為今般「ルソン」島ニ一直轄地域  
及五行政區ヲ設ケテ各地區ニ行政長官ヲ配置  
シ地方連絡官ヲ增強設置セラレタリ  
地方連絡官ノ所在地左ノ如シ

左

ルソン地區

ツゲガラオ、バギオ、タルラックス、

サニパブロ、ナガ

ビサヤ地區

セブ

ミンダナオ地區

ダバオ

ニ對敵宣傳ニ就テ

來攻スル敵米軍、志氣ハ旺盛ナルヘシ、然シ

トモ彼等カ弱點ハ人命ノ損失ニ在リ、特ニ透徹

セル死生觀ヲ有セサル彼等ニ對シテハ茲ニ大ナ

ル志氣沮喪ノ間隙ヲ有スルモノト認ム

又個人主義、自由主義、就中白人種生成、歴史的傳統ニ基ク法の觀念等亦茲ニ敵ノ弱點ヲ見ル

此ノ如キ敵ノ弱點、虚隙ニ乘シ或ハ厭戰思想ヲ注入シ、或ハ戰爭ノ前途ニ對スル不安感ヲ助長シ、或ハ聯合軍ノ弱點ヲ衡キ内訌ヲ誘發スル

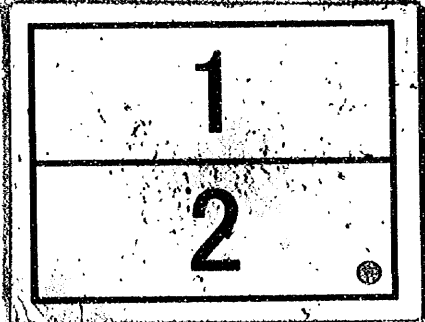
等宣傳部面ノ擔任事項尠少ナラス

三、宣傳ノ組織機構ニ就テ



過般既ニ方面軍宣傳班及第三十五軍情報  
班ノ編成ヲ令セラル、而テ其ノ要員ハ多クハ各兵  
團ニ於テ現ニ其ノ業務ニ從事シアルモノヲ以テ充  
當シ又運用ノ趣旨ハ第一線各兵團ニ配屬使  
用スルニ在リテ現地ニ於ケル活動ヲ第一トシ本施  
策ヲ實施セラル、モノナリ

# 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	戦場宣傳計画
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	



尙武作命乙第六號訓令

戰場宣傳計畫書

昭和十九年九月十九日  
第十四方面軍司令部

方針

豫想戰場附近並ニ後方連絡線上ノ民心ヲ攪シテ對日方ヲ分化シ我々作戰進行ヲ容易ナラシムル如ク其ノ素地ヲ培養スルト共ニ敵ノ來攻ニ際シテハ強カニ之ヲ掌握ス又武力戰ニ即應シテ敵ノ戰意ヲ破碎スルニ努ム

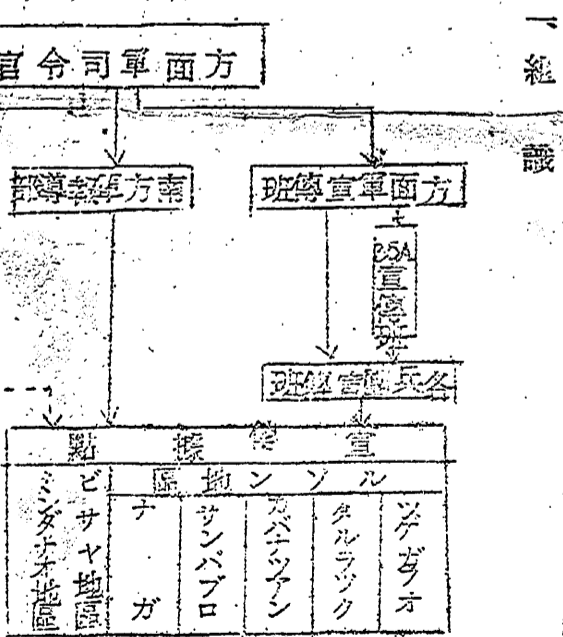
宣傳要目

- 一 國土防衛意識ヲ提揚ス
- 特ニ島向防衛精神ヲ強調ス
- ニ 對米戰意ヲ激成ス
- 特ニ敵ノ弱點ニ對シ具體的  
事例ヲ以テ實證的ニ宣傳ス
- 三 對日協力ノ具體的方途ヲ明  
示ス
- 特ニ去歲ヲ明カナラシメ信  
賞必罰ヲ以テ臨ム

敵性宣傳ノ取碎

- 一 比島要域ニ對シ我ガ「ニユー  
ス」ヲ速達普及セシム  
(南方軍報導部擔任)
- ニ 敵性電波ヲ剔抉撲滅スルト共  
ニ短波無線器ノ回收ヲ更ニ敵  
底セシム  
(各兵團及軍憲兵隊擔任)
- 三 流言ノ本據ヲ究明剔抉ス  
(各兵團及軍憲兵隊擔任)
- 四 要人ノ言動ヲ監視ス  
(別班擔任)
- 五 要域内ノ敵性分子ヲ掃蕩シ民  
心ヲ安定ス  
(各兵團及軍憲兵隊擔任)
- 六 敵側ノ惡辣非人道行爲ヲ呈示  
宣傳ス  
(南方軍報導部擔任)

實施要領



對敵

- 一 歷戰思想ヲ注入
- 1 人命ノ損失犧牲ヲ特ニ強調ス
- 2 法的觀念ニ訴ヘ義務ノ終了、權利ノ要求ヲ強調ス
- 3 郷土家族ニ對スル思慕ノ情ヲ煽動ス
- 4 安樂ナル生活ヲ回顧セシム
- ニ 戰事ノ前途ニ對スル不安ヲ  
助長ス
- 1 人的損害ヲ提示ス
- 2 後方連絡線ニ對スル脅威  
ヲ示唆ス
- 3 國內情勢ノ不安ヲ指摘ス
- 4 生ノ本能ニ訴ヘ憶病心ヲ  
誘發ス

我ガ軍容、軍紀ヲ確立シ  
(各兵團、部隊擔任)  
ハ其ノ他各兵團、部隊、機關ヲ  
擧ゲテ機宜ノ處理ヲ講ジテ敵  
性宣傳ノ破碎ニ努ム

- 一 任 務
- 1 方面軍及軍宣傳班  
宣傳ニ關スル全般統轄指  
導
- 2 南方軍報導部  
宣傳資料ノ收集、整理、提  
供指導
- 3 各兵團宣傳班  
宣傳據點ニ對スル援助並ニ

備	傳	宣	敵	對
<p>一 本計畫ノ外昭和十九年四月一日渡示達第三四號「第十四等宣傳計畫」ハ本計畫ニ根據セザル範圍内ニ於テ之ヲ準用スルモノトス</p> <p>二 臨機ノ事項ニ關シテハ其ノ都度處置スルモノトス</p>	<p>一 內訌ヲ誘發ス</p> <p>1 指揮官ト兵トノ相剋磨擦ヲ生起ヤシム</p> <p>2 米、濠（加）兵ノ離間反目ヲ助長ス</p> <p>3 陸、海空ノ協同ヲ衰亂ス</p>	<p>一 內訌ヲ誘發ス</p> <p>1 指揮官ト兵トノ相剋磨擦ヲ生起ヤシム</p> <p>2 米、濠（加）兵ノ離間反目ヲ助長ス</p>	<p>1 人的損害ヲ提示ス</p> <p>2 後方連絡線ニ對スル脅威ヲ示唆ス</p> <p>3 國內情勢ノ不安ヲ指摘ス</p> <p>4 生ノ本能ニ訴ヘ憶病心ヲ誘發ス</p>	<p>1 人命ノ損失等ニ對シテ之ノ悲劇性ヲ強調ス</p> <p>2 法的觀念ニ訴ヘ義務ノ終了、權利ノ要求ヲ強調ス</p> <p>3 郷土家族ニ對スル思慕ノ情ヲ煽動ス</p> <p>4 安樂ナル生活ヲ同感セシム</p> <p>ニ 戰線ノ前途ニ對スル不安ヲ助長ス</p>
	<p>一 我方軍容、軍紀ヲ確立ス</p> <p>（各兵團、部隊擔任）</p> <p>ハ其ノ他各兵團、部隊、機關ヲ舉ゲテ機宜ノ處理ヲ講ジテ敵性宣傳ノ破碎ニ努ム</p>	<p>一 重要域内ノ敵性分子ヲ掃蕩シ民心ヲ安定ス</p> <p>（各兵團及軍憲兵隊擔任）</p> <p>ニ 敵側ノ惡辣非人道行爲ヲ呈示宣傳ス</p> <p>（南方軍報導部擔任）</p>	<p>一 任</p>	<p>1 方面軍及軍宣傳班</p> <p>宣傳ニ關スル全般的統轄指導</p> <p>2 南方軍報導部</p> <p>宣傳資料ノ收集、整備、提供據點宣傳ノ構成並ニ（次直接指導</p> <p>3 各兵團宣傳班</p> <p>宣傳據點ニ對スル援助並ニ之ガ宣傳實施ノ指導</p> <p>兵團行動（擔任）地域内ノ宣傳實施</p> <p>4 宣傳據點</p> <p>宣傳基盤ノ培養</p> <p>擔任地域（附圖）ノ宣傳實施</p> <p>5 方面軍憲兵隊及參謀部別班</p> <p>宣傳據點ニ對スル援助又ハ要求</p>
<p>三 運</p>	<p>用</p>	<p>機ヲ見テ據點宣傳班ヲ所要ノ兵團ニ配屬シテ戰場宣傳隊ヲ編成シ當面ノ宣傳ヲ實施セシム</p> <p>南方軍報導部長ハ重點方面ノ戰場宣傳隊ヲ更ニ強化シ所要ニ應ジ自ラ之ヲ指揮ヲ採ル</p>	<p>別</p>	

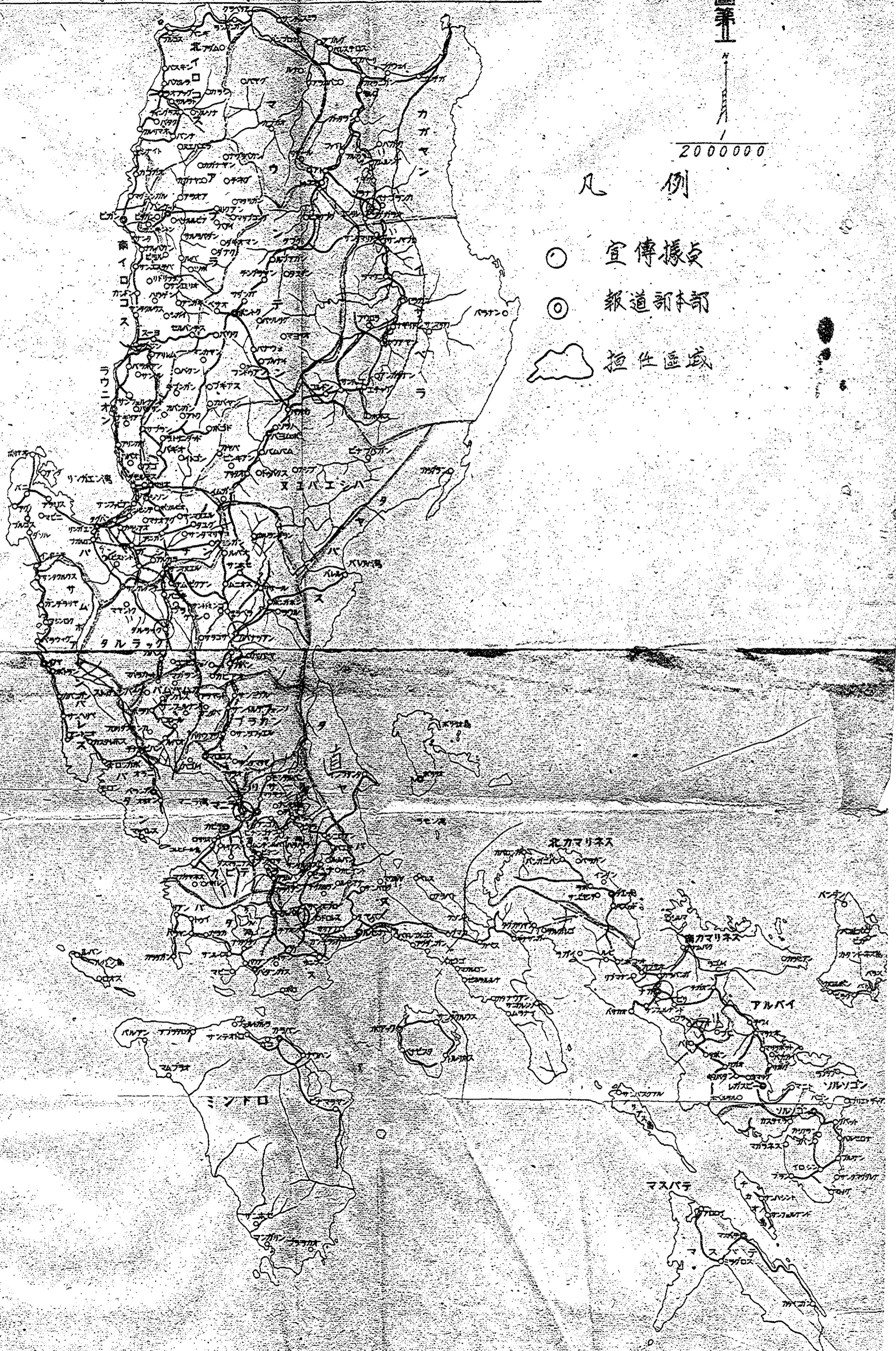
# 宣傳據点及宣傳担任区域要圖

附圖一

2000000

凡例

- 宣傳據点
- ◎ 報道部本部
- ☁ 担任区域





部	連	記	任	官	謀	長
						隊部

極秘

南總報比宣傳情報速報第二四號

反日華僑反日傳單ヲ撤布ス

昭一六六二五  
南方軍報道部



九月二十五日朝「バグンバナホン」區「トベリヤス」附近ニ於テ比人  
子供ヲ利用シ左記ノ如キ反日傳單ヲ撤布中ナルヲ發見拾得セリ  
内容譯文左ノ如シ（原文英文騰寫印刷）

聲明

米英聯合軍は正に比島の表裏に迫れり、マツクアーサー將軍はかねての約束通り今や比島に歸來せんとしつゝあり  
聯合軍が比島の外側より敵日本を撃破せんとしあるに對し我々比島國民は比人も華人もあげて國內に於て日本との對戦を期さねばならぬ。  
茲に我々は左の通り嚴肅にわが綱領を聲明せん

本情報ハ比島ニ於ケル宣傳  
情報勤務者服務上ノ參考ニ  
資スル爲配布スルモノトス



1206

- 1、敵日本を撃破以て比島より驅逐す
  - 2、比島民衆に及ぼす戦禍を最少限ならしめて敵の襲撃を完遂す
  - 3、米英聯合軍の到着に依り成功の公算十分となるまで若しくは最高司令部より命令あるまでは敵に對し何ら武力的攻勢をなさず
  - 4、敵陸海兩軍の情報を蒐集送達してG H Q。S W P Aに能ふ限りの援助協力をなす
  - 5、戦闘部隊を編成し訓練整備す
- 且武器裝備可能とならば更に部隊増加を期す
- 右記綱領達成の爲我々は獻身以て眞の比島人の盟友たらん。比人も華人も共に地理的に東洋人にして血縁亦密なる共に民主主義國民なり
- 我々此の秋に於てこそ正に相携へて撃敵の一途に邁進せん
- 比島民に比島魂あり。我等は諸君に深甚の同情を寄するものなり。されど諸君、一日も忘るべからず。則ち米國は過去に於て比島津々

浦々に洽く民主主義的文化を弘化せり。而して米は比島を日本の手より救はんとして今や比島に迫りつゝあり

曩に米國は比島に獨立の約束を與へたり。ルーズベルト大統領は再び獨立許與を誓言せり、さればこそ比島民は米國に忠誠を誓ふべきなり。これ正に諸君の義務たるのみならず、はた又諸君自身の本意なるべきを信ず

比島民諸君、相携へて共に進まん

日本を打倒せよ、勝利近きにあり、神の加護は我等にあり。

一九四四年九月二十一日

在比島中華海外○○義勇軍

H Q L G F U S F I D を經  
由、G H Q S W P A の承認  
申請中

部	領	記	費	任	主	官	參	長	隊	部

**極秘**

南總報比宣傳情報速報第二三號

華僑抗日匪空襲直後宣傳文ヲ撤布ス

昭一六九二  
南方軍報部



九月二十一日夕「マニラ」市空襲直後ノ街頭ニ華僑抗日匪ハ左記ノ如キ日本人向反戰宣傳文（謄寫版印刷）ヲ撤布セリ（確度甲現物入手）左記（原文ノ儘）

其ノ一

日本ノ兵隊サン、貴方ノ奥様ハキナカニ見イテ淋シクテオ腹ガ空イテキマス、貴方ノ子供ガナキナガラ「オ父様」ヲ呼ツテキマス

（日本兵士們你的妻正在故鄉受飢餓和寂寞你的孩子在哭着叫「爸爸呀！」）

菲律賓華僑抗日遊擊支隊司令部  
菲律賓華僑抗日遊擊支隊司令部

本情報ハ比島ニ於ケル宣傳情報勤務者服務上ノ參考ニ資スル爲配布スルモノトス



1209



其ノ二

日本ノ兵隊サン、賢方選ノ反戦組織ヲ、擴大シテ、銃口ヲ轉ジテ、悪イ官長ヲ打倒シ早ク戦争ヲ完結シテ、自分ヲ解放セヨ

(日本兵士們、擴大你們的反戰組織、赶快掉掉槍頭、推翻上級、結束戰爭、解放你們自己)

菲リシンビンカケウカウニチハンカンダイトウイ  
菲律賓華僑抗日反奸大同盟  
菲リシンビンカケウカウニチハンカンダイトウイ  
菲律賓華僑抗日游擊支隊司令部

其ノ三

台灣ト朝鮮ト祖國淪陷區ノ兄弟ヨ、銃口ヲ轉ジテ、抗日ノ人民軍ト一緒ニ、我等ノ共同敵人ヲ消滅セヨ

(台灣朝鮮和祖國淪陷區的兄弟們、掉轉鎗頭和抗日人民軍一起、消滅我們共同的敵人)

ヒリシンビンカケウカウニチハンカンダイトウイ  
菲律賓華僑抗日反奸大同盟  
ヒリシンビンカケウカウニチハンカンダイトウイ  
菲律賓華僑抗日游擊支隊司令部



其ノ四

支持華僑武裝闘争、援助抗日  
游撃隊

菲律賓  
華僑  
抗日  
游撃  
支隊  
司令部

1211